

ほんよも

No. 009

桂陽高校図書キャラクター
「ほんよも」

2021 年も「本読も」！

2021 年、令和3年がスタートしました。昨年は新型コロナウイルスに翻弄されっぱなしでしたが、今年は明るい一年になることを願ってやみません。（せっかくなので感染症関連の本も少しずつ揃えています）

【図書室トピックス① 貸出冊数を無制限に】

今まで、貸し出し冊数の上限は5冊でしたがこれを撤廃し、無制限とします。ただし貸出期間は今までと同じく2週間。2週間で読み切れそうであれば何冊でも借りて結構です。

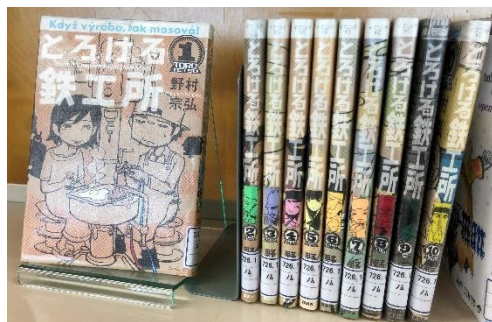
【図書室トピックス② 桂陽図書の100冊】

「桂陽図書の100冊」という小冊子を作成中です。図書室にある本の中から特に面白い、オススメの本を100冊厳選し、内容を紹介したものです。近日中に全校生徒にお配りします。お楽しみに。



【図書室トピックス③ 漫画も続々入荷中】

実は図書室には活字の本だけではなく、漫画や絵本、写真集などもあります。今はひそかに漫画を着々と整備中です。最近では溶接工の日常を描いたゆるい漫画『とろける鉄工所』が貸出可能になっています。今後は手塚治虫さんの名作『ブラックジャック』等も入る予定です。



～活字でしかできないどんでん返し～

『葉桜の季節に君を想うということ』

(歌野晶午)

内容・あらすじ

主人公は「何でも屋」を自称する私立探偵・成瀬将虎。ある日将虎は、同じフィットネスクラブに通う愛子から、ある悪質な靈感商法の調査を依頼されます。愛子の身内が、保険金詐欺に巻き込まれて亡くなった可能性があるということです。

愛子にひそかに想いを寄せていた将虎は調査を始めます。ちょうどその時期、自殺を図ろうとしていた麻宮さくらという女性を助けたことで運命の歯車が回り始めます――。

川口先生の感想

私立探偵が危険な目に遭いつつ切り抜けていくハードボイルドな展開に「まあまあおもしろいじゃないか」と思いながらページをめくっていました。

そして結末まであと数ページ、という箇所、**「ん??」**と、目が点になりました。そして、**「え?え?どういうこと?」**と混乱し、さらに、**「え!なに!○○じゃないの!？」**と驚き、あわてて最初の方を読み返し、**「なんだよ! そういうことかよ!! やられた!!!」**と叫び声をあげました……。

これ以上ないくらいの見事などんでん返し。本編の後に、作者が書いた「用語集」が載っているのですが、これがまた憎たらしいこと……。作者のニヤケ顔が目には浮かぶようでした。この小説を語る上でよく言われるのが、「絶対に映像化できない作品」ということです。確かにこの作品、映像化は不可能です。活字だからこそできる大仕掛け。読んだことがない人は、ぜひこの驚きを味わってほしいと思います。

